

## 2019年度「書物との出会い（イ）」（近代ヨーロッパと現代）リーディングリスト

\*各項目に含まれる内容

(1)書誌情報／(2)その本が関連する学問領域／(3)キーワード:その本が関連するテーマなど／(4)本の難易度:0～3まで（数が大きいほど難易度が高い）／(5)推薦した教員のコメント／(6)推薦者の名前、所属

- (1) I. ウォーラーステイン（川北稔訳）（2013年）『近代世界システム（1）－農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立－』名古屋大学出版会、5184円。ISBN:9784815807436
- (2) 学問領域：歴史学（世界史）
- (3) キーワード：近代の西欧、地中海、東欧、世界経済、中核と半辺境ならびに辺境
- (4) 難易度：2
- (5) ヨーロッパがいかにして近代化に成功したかを、世界経済システムの形成をキーワードにして論じた名著です。ヨーロッパの近代化を考えるうえで、重要な書物です。「近代化」といえば、私たちが想起するのは、イギリスの産業革命ですが、本書ではそれ以前の時代にさかのぼって「近代化」を考察したものです。本書じたいは、4冊からなる大著ですが、ここでは第1巻だけをあげておきました。イギリス、フランス、オランダなど、北大西洋の一角を占める諸国を「中核地域」と位置づけています。そして、これらの国がいかにして、「半辺境」である地中海世界、そして「辺境」である東欧や新大陸を「世界経済システム」組み込んでいくかについて論じています。
- (6) 推薦者：唐澤晃一（教育学部）

- (1) 南塚信吾編（2006年）『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社、3500円。ISBN:4634414902
- (2) 学問領域：歴史学（東欧史）
- (3) キーワード：ドナウ川、ハプスブルク家、オーストリア、チェコスロヴァキア、ハンガリー
- (4) 難易度：2
- (5) 東ヨーロッパの歴史を中世から現代まで、「ドナウ川」とその流域を支配した「ハプスブルク家」を中心にしてながめた概説書です。「東ヨーロッパ」といえば、民族問題など、紛争がたえない地域と考えられがちです。しかしそれは現代に限った話であり、もともとは、ハプスブルク家がドナウ川流域を中心に、さまざまな民族を緩やかに統合していたことが、本書を読むとよくわかります。近代史についてついでの部分、とくに注意して読むとよいでしょう。工業国であるチェコスロヴァキアと、農業国であるハンガリーでは、それぞれ近代化のありかたが、異なっていたことがうかがえます。
- (6) 推薦者：唐澤晃一（教育学部）

- (1) 巖善平（2002年）『農民国家の課題』名古屋大学出版会、2800円。ISBN：4815804427
- (2) 学問領域：経済学
- (3) キーワード：20世紀の中国、経済、農業、都市と農村、社会主義
- (4) 難易度：3
- (5) 私の担当分では、中国の近代化も扱う予定ですので、この書物もあげさせていただきました。現代や過去の中国を理解するうえで、人口の多数を占める農民と農村を理解することはたいへん重要です。本書は、20世紀後半における中国の農村について扱った書物です。農村の経済が中国経済に果たした役割がどのような変遷をたどったかを、統計データに基づいて精査しています。農業経済の形成過程と、その経営の実態、そして、国際的にみた中国の農業の意義が、論じられています。20世紀に中国共産党が支持基盤としたのは、まさにこうした農村でした。したがって、中国の近代化は、欧米や日本と異なり、農村から生み出されたといえるでしょう。こうした問題を考えるうえで、本書は、参考になります。
- (6) 推薦者：唐澤晃一（教育学部）

- (1) 御子柴義之 (2015年)『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、907円、ISBN : 9784005007981
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度：1
- (5) 「カントの原典にいきなり挑戦するのはちょっと…」と思っているみなさんに、まず読んでもらいたい一冊。身近な出来事とのつながりで、カント哲学のエッセンスと「自分で考えること」の大切さを教えてくれる。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) カント (1985年)『永遠平和のために』(訳) 宇都宮芳明、岩波文庫、560円、ISBN : 9784003362594
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：平和、歴史、理想
- (4) 難易度：2
- (5) 最近の安保法案をめぐる議論でもしばしば引用される古典。何のために「永遠平和」(＝一切の敵意の解消)という理念を掲げる必要があるのか、丁寧に論じており学ぶところが多い。「平和主義なんて、結局たんなる理想論でしょ?」と考えている人にこそ読んでもらいたい一冊。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 松元雅和 (2013年)『平和主義とは何か』、中公新書、886円、ISBN : 9784121022073
- (2) 学問領域：政治学、哲学・倫理学・論理学
- (3) キーワード：戦争、平和、平和主義、正戦論、軍事的介入
- (4) 難易度：2
- (5) 「愛する人が襲われても無抵抗でよいのか」「正しい戦争もあるのではないか」等、平和主義に向けられる批判に丁寧に組みながら、「説得力のある平和主義」の姿を探る論考。読み終わった時、平和主義のイメージがかなり変わるのではないか。また言論の力を強く感じさせる一冊でもある。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) J・S・ミル(2012年)『自由論』(訳) 齊藤悦則、光文社、1145円、ISBN : 9784334752507
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、政治学、歴史学
- (3) キーワード：自由、功利主義、幸福、権利
- (4) 難易度2
- (5) 功利主義の立場から自由を最大限に認めあうことが個人にとっても社会にとっても有益であることを論じた本。「自由」について考えるための最も基本になる必読の名著である。
- (6) 推薦者：石川徹 (教育学部)

- (1) J・S・ミル (1960年)『ミル自伝』(訳) 朱牟田夏雄、岩波文庫、絶版、ISBN : 9784003411681
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、文学、政治学、教育学
- (3) キーワード：功利主義、幸福、教育
- (4) 難易度2
- (5) 自分の人生を誠実に振り返って書かれた最良の自伝の一つ。他分野にわたり大きな業績を残したミルの入門書としても役立つ。
- (6) 推薦者：石川徹 (教育学部)

- (1) 直江清隆・越智貢（編）（2012年）『自由とは』（高校倫理からの哲学4）岩波書店、1620円、ISBN：9784000285445
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、政治学、教育学
- (3) キーワード：自由 運命、社会、必然性
- (4) 難易度2
- (5) 自由の多義性を、対立項をはっきりさせることで明示し、それぞれ身近なところから、どのような問題があるのかを明示して考えさせてくれる。少しずつ考えながら読むことをすすめる。
- (6) 推薦者：石川徹（教育学部）

- (1) 竹内洋（2015年）『立志・苦学・出世—受験生の社会史』講談社学術文庫、846円、ISBN：9784062923187
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：日本の近代化 受験
- (4) 難易度：2
- (5) 幕藩体制の崩壊後、当時の若者たちは、新たなる制度の下、如何なる取り組みで生涯を渡っていかうとしたのだろうか？今日にも通じる「受験」についての、私達の先達の営為を俯瞰して読み取ることができます。
- (6) 推薦者：山本裕（経済学部）

- (1) 松沢裕作（2016年）『自由民権運動—〈デモクラシー〉の夢と挫折』、岩波新書、886円、ISBN：9784004316091
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：日本の近代化 自由民権
- (4) 難易度：2
- (5) きっと一度は聞いたことがある「自由民権運動」。この問題を、近世社会からの連続で捉え、当時の人々の生き様からとらえ返そうとする、新しい歴史像の構築を試みています。「歴史の中の昔の出来事」ではない、歴史が、そこにあります。
- (6) 推薦者：山本裕（経済学部）

- (1) 筒井清忠（2009年）『日本型「教養」の運命—歴史社会学的考察』岩波現代文庫、絶版、ISBN：9784006002312
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：日本の近代化 教養 修養
- (4) 難易度：2
- (5) 「大学では教養を身に付ける」こんな言葉を聞いたことがあるかもしれません。では、何故、大学では教養を身に付けることになったのでしょうか。明治期以降の「その時代の若者」達が、教養を身に付けようとするに至った社会状況について、歴史学的に考察しています。なお、現代日本社会で「教養」とは何か？それに対する著者の回答も、本書の第5章で提示されています。
- (6) 推薦者：山本裕（経済学部）

- (1) 松沢裕作 (2018年) 『生きづらい明治社会——不安と競争の時代』 岩波ジュニア新書、800円＋税、ISBN: 978-4005008834
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：不安・競争・近代・明治社会
- (4) 本の難易度：1
- (5) 昔と今は本当に切り離されているのでしょうか？明治日本社会を読み解く本書は、生き辛かった「昔」を描きながら、今日まで続く、あるいは重なる問題を抉り出しています。とにかく読みやすいのでぜひ読んで下さい。
- (6) 山本裕 (経済学部)

- (1) 魯迅作・竹内好訳 (2016年) 『阿Q正伝・狂人日記 他十二編 (呐喊)』 岩波文庫、734円、ISBN : 9784003202524
- (2) 学問領域：文学、社会学
- (3) キーワード：魯迅、呐喊 (とっかん)、近代中国、封建社会、社会変革
- (4) 難易度：1
- (5) 日本でも愛読者の多い魯迅の代表的な短編小説集であり、現実描写とユーモア満載の創作手法は特徴的である。「狂人」、「阿Q」などの人物を描くことによって、近代中国社会の救いがたい病根とは何かを問いかける。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 川島真 (2010年) 『近代国家への模索 1894-1925』 (シリーズ中国近現代史②) 岩波新書、929円 ISBN9784004312505
- (2) 学問領域：歴史学、社会学
- (3) キーワード：近代国家、清王朝、辛亥革命、中華民国、割拠
- (4) 難易度：3
- (5) 近代中国は諸列強に侵略される半植民地国家と化した。しかし「近代化」が西欧諸国からアジアに伝わってくる過程において中国の「知識人・有志」は日本と同じように「救国」について悩み、近代化への道を模索していた。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 原田敬一 (2007年) 『日清・日露戦争』 (シリーズ日本近現代史③) 岩波新書、886円 ISBN : 9784004310440
- (2) 学問領域：歴史学、社会学
- (3) キーワード：日清・日露戦争、朝鮮、明治、日本帝国
- (4) 難易度：3
- (5) 近代日本は、日清・日露戦争から始まった戦争によって東アジアを植民地にし、帝国にのし上がった。両戦争は東アジアの新秩序を形成した。日中韓の歴史認識をめぐる対立の原点はそこにあったかもしれない。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) ガンディー, M. K. (2001年) 『真の独立への道 (ヒンドゥ・スワラージ)』岩波書店 544円、ISBN 9784003326121
- (2) 学問領域：哲学、歴史学、政治学、経済学、法学
- (3) キーワード：ガンディー、インド、イギリス、植民地、近代文明
- (4) 難易度：1
- (5) ガンディーによる主著の一つで、1910年出版である。その中で彼は、近代文明の中に精神性の軽視と物質主義をみており、イギリスを批判するのではなく、植民地時代に「カンパニー〔東インド会社〕の人たちの銀」に魅了されたインド人をも批判する。
- (6) 推薦者：石井一也（法学部）

- (1) 竹中千春 (2018年) 『ガンディー—平和を紡ぐ人』岩波書店, 820円、ISBN :9784004316992
- (2) 学問領域：哲学、歴史学、政治学、経済学、法学
- (3) キーワード：ガンディー、カストゥルバ、ハリラール、ゴードセー
- (4) 難易度：2
- (5) ガンディーについての近著の一つで、ジェンダーおよび国際政治の研究者によるものである。ガンディーの人生に沿って、かかわりのあった人物が描かれるが、とりわけ妻、長男、そしてガンディーを暗殺した犯人についての記述が特徴的である。
- (6) 推薦者：石井一也（法学部）

- (1) 石井一也 (2014年) 『身の丈の経済論—ガンディー思想とその系譜』法政大学出版局、4104円、ISBN :9784588603358
- (2) 学問領域：哲学、歴史学、政治学、経済学、法学
- (3) キーワード：ガンディー、身の丈の経済、コンヴィヴィアリティ、近代主義、チャルカー（手紡ぎ車）
- (4) 難易度：3
- (5) ガンディーの経済思想を、西洋の経済学やマルクス主義との対比において論じ、その近代文明批判および「ポスト近代」を目指す思考および実践を説明したものである。ガンディー以後の思想的系譜を辿り、21世紀における彼の思想の意義を考えている。
- (6) 推薦者：石井一也（法学部）

## 2019 年度「書物との出会い（口）」（男と女）リーディングリスト

\*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 0~3まで (数が大きいほど難易度が高い) / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) 若桑みどり (2003) 『お姫様とジェンダー』ちくま新書、740 円、ISBN-10 : 4480061150
- (2) 学問領域 : 社会学、ジェンダー・スタディーズ
- (3) キーワード : ジェンダー
- (4) 難易度 2
- (5) 白雪姫、シンデレラ、眠り姫などのディズニーアニメをジェンダーの視点から読み解く。筆者の授業を受けた学生の感想も掲載されており、この本を読み終えた後には、これまでとは異なったディズニーアニメの見方ができるようになっているはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 本橋哲也 (2015) 『ディズニー・プリンセスのゆくえ』ナカニシヤ出版、2160 円、ISBN-10: 4779510589
- (2) 学問領域 : 社会学、カルチュラル・スタディーズ
- (3) キーワード : ディズニー
- (4) 難易度 2
- (5) 白雪姫やシンデレラといったディズニーアニメから、近年の実写版シンデレラやマレフィセントまでを題材として扱い、カルチュラル・スタディーズの側面からディズニー・プリンセスについて考察した本。上記の『お姫様とジェンダー』と比較してみるとそれぞれの視点が際立って面白い。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 伊藤公雄・牟田和恵編 (2015) 『ジェンダーで学ぶ社会学 (全訂新版)』世界思想社、1,944 円、ISBN : 4790716686
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : ジェンダー、社会学
- (4) 難易度 2
- (5) 「育つ」「学ぶ」からはじまり「シェーカツする」「愛する」「ケアする」等、この本ではトピックごとにジェンダーについて学ぶことができる。社会学領域におけるジェンダー論の基本はもちろんのこと、変化球も組み込まれており、何かしらの新しい視点を提示してくれるはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 井上俊・伊藤公雄編 (2010)『社会学ベーシックス第5巻 近代家族とジェンダー』世界思想社、2,160 円、ISBN: 978-4790714491
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、ジェンダー、フェミニズム
- (4) 難易度 2
- (5) 社会学がこれまで蓄積してきた知的成果を基本文献の解題という形でまとめたシリーズの 1 冊で、近代家族やジェンダーについて学ぶことができる。取り上げられた文献はその歴史的意義や現在の評価を考慮して選ばれており、文献解題は、内容の解説、著者のパーソナル・ヒストリーに関するスケッチ、学説史上の背景や意義の 3 セクションから成る。近代家族のゆくえ、ジェンダーという視座、いずれも基本文献に触れることで学ぶことは多い。
- (6) 推薦者：時岡晴美（教育学部）

- (1) 上野千鶴子 (2010)『女ざらいーニッポンのミソジニー』紀伊国屋書店、1,620 円、ISBN:978-4-314-01069-6
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：ミソジニー、性の二重基準、自己嫌悪、現代社会
- (4) 難易度 3
- (5) 男性にとっての「女性嫌悪」、女性にとっての「自己嫌悪」に着目して、様々な角度から現代社会を解説しながら、「男社会」の現実を解剖していく書である。ジェンダー研究のパイオニアとされる著者が、「どんなに不快であれ、そこから目をそむけてはならない現実」として書き継ぎ、「それを知ることによって、それがどんなに困難でも、その現実を変えられる可能性がある」とし、「共感も反感も含めて、本書には波紋を拡げてほしい」と言っている。
- (6) 推薦者：時岡晴美（教育学部）

- (1) 水無田気流 (2015)『「居場所」のない男、「時間」のない女』日本経済新聞出版社、1,404 円、ISBN : 978-4-532-16955-8
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、男性問題、ワークライフバランス、サラリーマン家庭
- (4) 難易度 2
- (5) 現代の日本人男性は、仕事以外の人生の選択肢に乏しく「世界一孤独」とされ、日本人女性は、婚活・妊活などのタイムリミットに追われ続けて自分の時間が確保できない状況におかれている。サラリーマンの夫と妻という現代の家族のありように、本当に幸福なのかと疑問を投げかけ、男女ともに幸福になるための方法論を展開している。現在の気鋭の社会学者による書であり、かなり個性が強いので、十分に読み込んだ上でしっかり反論してもらいたい。
- (6) 推薦者：時岡晴美（教育学部）

- (1) 濱田智崇・[男] 悩みのホットライン編 (2018) 『男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と支援』、ミネルヴァ書房、2,808 円、ISBN : 978-4623082438
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：男性問題、男性相談
- (4) 難易度 2
- (5) 男性ならではの問題を、「相談」という切り口から示したのが本書である。相談担当者向けの専門書でもあり、社会問題だけでなく各事例に対する支援の実際についても書かれているのが特徴である。
- (6) 推薦者：高田 純 (保健管理センター)

- (1) 伊藤公雄 (1996) 『男性学入門』、作品社、1,728 円、ISBN : 978-4878932588
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：男性問題、ジェンダー
- (4) 難易度 1
- (5) 『男性学』とは何か、その古典ともいえる本書が発行されて 20 年以上が経っているが、今もなお迫力がある。現代では理解しがたい内容もあるかもしれないが、親世代の価値観と重なるところもあるので、時代的な背景も考慮しながら読み進めていくとよいだろう。
- (6) 推薦者：高田 純 (保健管理センター)

- (1) 河合隼雄 (2008) 『とりかえばや、男と女』新潮社、1,296 円、ISBN:4106036169
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：ジェンダー、深層心理
- (4) 難易度 2
- (5) 『とりかえばや物語』は、平安時代に描かれた男女逆転の物語である。「男らしさ」とは？「女らしさ」とは？物語からみえてくる、ジェンダーと性愛の深層を心理学の立場から読み解いていく。
- (6) 推薦者：高田 純 (保健管理センター)

- (1) 高橋秀樹(2004)『中世の家と性 (日本史リブレット)』山川出版社、864 円、ISBN : 978-4634542006
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 家族史、生活史、性差
- (4) 難易度 1
- (5) 日本中世の家族史・生活史について、女性史・男性史、あるいは性差の視点から、これまでに明らかになっている基本的な情報や歴史認識についてわかりやすく論じている。基本的な知識を身につけるのに適当な良書である。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 清水克之 (2015)『耳鼻削ぎの日本史』洋泉社、950 円、ISBN : 978-4-8003-0670-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 身体刑、習俗、性差、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 前近代の日本列島で行われていた耳鼻削ぎの身体刑は、鎌倉時代の地頭の非法行為として高校の日本史教科書にも登場するなど、よく知られているところである。しかし、耳鼻削ぎの習俗は、おもに女性に対して行われた身体刑であることはあまり知られていない。本書は、その習俗が存在した歴史的意味を理解し、いまでも現実に世界で行われているこうした習俗について、考えるきっかけになるであろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 池上俊一 (2001)『身体の中世』筑摩書房、1,500 円、ISBN : 4-480-08666-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (西洋史)
- (3) キーワード : 身体、表象、感性、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 西洋中世社会における人間や人間の身体、あるいは目や耳など人間を構成する様々な部位等に対する認識のあり方、または人間の表情やしぐさのあり方について広く考察したものである。本書は「男と女」の論点にとどまらず広い視野で論が展開しているが、講義内容をふまえて「男と女」の視点から読み解くことで、様々な角度から「男と女」がどう認識されてきたか、理解を深めることができる。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 網野善彦 (2005)『中世の非人と遊女』講談社学術文庫 1,037 円、ISBN : 978-4-06-159694-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 心性、女性、差別、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 日本の歴史学が農業、とくに水田を軸とした社会の分析に力点を注いできたことに対し批判的な立場をとりつつ、職人などの非農民や女性のあり方を考察してその歴史的立場について論じている。とくに、日本列島における「差別」意識の歴史的あり方やその変化のあり方について踏み込んだ検討をしておき、そうした問題について理解を深めるきっかけになるだろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 長谷川まゆ帆 (2007) 『女と男と子どもの近代 (世界史リブレット)』 山川出版社、787 円、ISBN-13 : 978-4634348905
- (2) 学問領域 : 社会史
- (3) キーワード : 家族史、ジェンダー
- (4) 難易度 2
- (5) 19 世紀以降に理想とされてきた女と男と子どもの関係は、それ以前から形づくられてきた、人間の感じ考えるその仕方や、社会的結合関係に、すでにその萌芽が埋め込まれていた。本書では、16~18 世紀の、とくにフランスで見られた変化に光をあてながら、近代社会を再考していく。
- (6) 推薦者 : 村上弥生 (男女共同参画推進室)

- (1) 柳田國男 (2013) 『妹の力』 角川ソフィア文庫、802 円、ISBN-13: 978-4044083168
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 民俗学、柳田國男、女性
- (4) 難易度 3
- (5) かつて女性には神秘の力があるとされ、祭祀を取り仕切り、信仰の対象にもなっていた。女性に託されていたものとはなにか。全国の民間伝承や神話などを丹念に検証し、担っていた役割を明らかにした。「遠野物語」で有名な柳田の女性の力についての著作集。
- (6) 推薦者 : 村上弥生 (男女共同参画推進室)

- (1) 柳田國男 (1993) 『明治大正史 世相篇 新装版』 講談社学術文庫、1,490 円、ISBN-13 : 978-4061590823
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 柳田國男、生活史
- (4) 難易度 3
- (5) 「毎日われわれの眼前に出ては消える事実のみによって、立派に歴史は書けるものだ」という著者が、明治大正の日本人の暮らし方、生き方を、民俗学的方法によって描き出した画期的な世相史。このような社会の変化の中で男と女の関係性も変化していくことを考えてほしい。
- (6) 推薦者 : 村上弥生 (男女共同参画推進室)

## 2019年度「書物との出会い ハ(視ることと読むこと)」リーディングリスト

\*各項目に含まれる内容

(1)書誌情報／(2)その本が関連する学問領域／(3)キーワード:その本が関連するテーマなど／(4)本の難易度:0～3まで (数が大きいほど難易度が高い)／(5)推薦した教員のコメント／(6)推薦者の名前、所属

- (1) 船津衛(2010年)『コミュニケーション・入門 改訂版』有斐閣アルマ、1944円、ISBN:9784641123960
- (2) 学問領域:社会学、社会心理学
- (3) キーワード:コミュニケーション、自我
- (4) 難易度:1
- (5) コミュニケーションとは、主体間で繰り広げられる表現、解釈、伝達の行動です。この本は、この原理に立ち戻り、心のなかから、個人間、個人と集団、マスメディア、インターネットに至るまで、包括的にかつ分かりやすくコミュニケーションを解説しています。
- (6) 推薦者:武重雅文(名誉教授)

- (1) 池上嘉彦(1984年)『記号論への招待』岩波新書、864円、ISBN:9784004202585
- (2) 学問領域:言語学、記号論
- (3) キーワード:コミュニケーション、記号、文化
- (4) 難易度:2
- (5) コミュニケーションに必須の、言葉に代表される記号は、われわれの認識や思考に重要な役割をはたす。本書は、言語学から生まれた記号に関する理論を用いて、コミュニケーションにおける意味の生成、変化を解説した、当該分野の代表的入門書。
- (6) 推薦者:武重雅文(名誉教授)

- (1) ヴァルター・ベンヤミン(1999年)『複製技術時代の芸術』佐々木甚一編集、晶文社クラシックス、ISBN:9784794912664
- (2) 学問領域:美学、哲学
- (3) キーワード:複製(コピー)文化、アウラ(オーラ)
- (4) 難易度:3
- (5) オーラといえば、人を取り巻くある種の輝きとして、皆さんもよく使われる言葉でしょう。ベンヤミンは、本書でオリジナルの芸術作品がもつ輝きとして、この言葉(アウラ)を用い、映画などを例に複製技術時代の芸術の変容について論じています。
- (6) 推薦者:武重雅文(名誉教授)

- (1) 白倉伸一郎(2004年)『ヒーローと正義』子どもの未来社、絶版、ISBN:9784901330428
- (2) 学問領域:社会学
- (3) キーワード:特撮ヒーロー、正義、プロデューサー
- (4) 難易度:1
- (5) 「特撮ヒーロー番組なんて、所詮子どもだましでしょ」なんてあなたが思っているのだとしたら大間違い!特撮ヒーロー番組の見え方だけでなく、「社会」の見え方も変わってしまう、推薦者一押しの一冊です。
- (6) 推薦者:葛城浩一(大学教育基盤センター)

- (1) 斎藤美奈子(2001年)『紅一点論ーアニメ・特撮・伝記のヒロイン像ー』筑摩書房、842円(文庫)、ISBN:9784480036667
- (2) 学問領域:社会学
- (3) キーワード:アニメ、特撮、ジェンダー
- (4) 難易度:2
- (5) 特撮ヒーロー番組だけでなく、アニメ番組のヒロインがどのように描かれているのかがよくわかる一冊です。アニメ番組には女兒向けのものも多く取り上げられているので、女子学生には特にお勧めします。
- (6) 推薦者:葛城浩一(大学教育基盤センター)

- (1) 須川亜紀子(2013年)『少女と魔法ーガールヒーローはいかに受容されたのかー』NTT出版、4104円、ISBN:9784757143098
- (2) 学問領域:社会学
- (3) キーワード:魔法少女、ジェンダー
- (4) 難易度:3
- (5) いわゆる「魔法少女」モノのヒロインがどのように描かれているのかを分析した一冊です。少し難しく感じるかもしれませんが、プリキュアシリーズまで網羅されているので、好きな学生(女子学生に限りません)には特にお勧めします。
- (6) 推薦者:葛城浩一(大学教育基盤センター)

- (1) 萩尾望都(2018年)『私の少女マンガ講義』1500円+税、新潮社、ISBN:978-4103996026
- (2) 学問領域:芸術、倫理学、歴史学(現代史)
- (3) キーワード:マンガ、創作、3・11
- (4) 本の難易度:1
- (5) 『ポーの一族』を世に送り出した少女マンガの大家が、日本少女マンガ史、自らの創作作法について生き生きと語る講義録とインタビュー。「少女マンガ」という独特のメディアについていろいろと気づかせてくれます。「少女マンガ」に馴染みのない男子にもおすすめ。
- (6) 佐藤慶太(大学教育基盤センター)

- (1) 四方田犬彦(1999年)『漫画原論』1200円+税、筑摩書房(ちくま学芸文庫)、ISBN:978-4480084789
- (2) 学問領域:哲学、歴史学
- (3) キーワード:マンガ、創作、解釈
- (4) 本の難易度:2
- (5) コマ割り、ふきだし、オノマトペの書き込み(「ピカーッ!」「タッタッタッタ…」など)…。こういったマンガならではの表現に目を向けたことはありますか?これらの表現方法に着目しながら、マンガの固有性を浮き彫りにする本書の考察は、まさに目からウロコです。
- (6) 佐藤慶太(大学教育基盤センター)

- (1) 鶴見俊輔（松田哲夫編）（2018年）『鶴見俊輔全漫画論①、②』①=1700円＋税、ISBN: 978-4480098559、②=1600円＋税、ISBN: 978-4480098566、筑摩書房（ちくま学芸文庫）
- (2) 学問領域：哲学、歴史学
- (3) キーワード：マンガ、解釈、戦後
- (4) 本の難易度：2
- (5) 「漫画は、自由な思想の行使にとって不可欠なしなやかさを保つための、思想の屈伸運動を提供する」。この思想を基調として著者がありとあらゆる作品を縦横無尽に読み解いていきます。本を読むともの見方が変わる——このことを体験するのにうってつけの本です。
- (6) 佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 橋爪大三郎 他（1996年）『知の社会学 / 言語の社会学』岩波書店、2,200円、ISBN: 4-00-010695-3
- (2) 学問領域：社会学、言語学、文学、芸術
- (3) キーワード：言葉、知、社会学
- (4) 難易度：3
- (5) 人間の知がどのように言語と関係しているか、さらにその関係がどのように人間の行動を社会的に編成しているかを、人文諸科学の分野で活躍している研究者が論理的に説明している。そのダイナミズムを知ることにより、現代社会の課題と自らの生き方について考察する手掛かりとなる本。
- (6) 推薦者：ウィリアムズ厚子（大学教育基盤センター）

- (1) 藤澤伸介（2011年）『言語力 認知と意味の心理学』新曜社、2,400円、ISBN: 978-4-7885-1230-6
- (2) 学問領域：心理言語学
- (3) キーワード：言語、意味、認知、生きる力
- (4) 難易度：2
- (5) 言語の使い方が、もの見方や心の持ち方にどのように影響をするかを様々な社会的な現象を分析しながら説いた本。言語の特質を知ること、物事の本質を見る力を養い、「生きる力」をつけるための手助けをしてくれる。
- (6) 推薦者：ウィリアムズ厚子（大学教育基盤センター）

- (1) チャールズ・M・シュルツ（1999年）『A Peanuts Book featuring SNOOPY 21 ボクは心配してないよ』 KADOKAWA、960円、ISBN: 978-4-04-704407-4
- (2) 学問領域：心理学、外国語（英語）、社会学
- (3) キーワード：スヌーピー、チャールズ・M・シュルツ、言語とこころ
- (4) 難易度：1
- (5) PEANUTS に登場する人物は誰も完璧ではなく、皆、なんらかの弱点を持っている。しかしながら、彼らのユーモアや人情の機微、そして常に前向きな気持ちは、複雑な社会に生きる読者の处世術のヒントになる。また、洗練された英語会話を楽しむことができ、特にパンチラインのウィットに富んだ英語表現はどのコマも記憶に残るものである。
- (6) 推薦者：ウィリアムズ厚子（大学教育基盤センター）

- (1) チャールズ・M・シュルツ (2009年) 『悩んだときに元気が出るスヌーピー』 祥伝社、780円、ISBN: 978-4-396-11182-3
- (2) 学問領域：心理学、外国語（英語）、社会学
- (3) キーワード：スヌーピー、チャールズ・M・シュルツ、言語とこころ
- (4) 難易度：1
- (5) 誰しも落ち込んだり、不安に思ったりすることがあるが、ここに出て来る登場人物も目の前の問題に対して自分なりに答えを出している。人生に正解はないということと、だからこそ人生は楽しく、かけがえの無いものであるということを教えてくれる一冊。オーセンティックな英語表現と絵をほぼ同時に認識することによる、漫画学習効果にも期待ができる。
- (6) 推薦者：ウィリアムズ厚子（大学教育基盤センター）

- (1) チャールズ・M・シュルツ (2005年) 『A Peanuts Book Special featuring SNOOPY — ルーシーの心の相談室 — 』 KADOKAWA、952円、ISBN: 4-04-704415-6
- (2) 学問領域：心理学、外国語（英語）、社会学
- (3) キーワード：スヌーピー、チャールズ・M・シュルツ、言語とこころ
- (4) 難易度：1
- (5) PEANUTS の漫画における「ルーシーの悩み相談」は、登場人物の心理を巧みに描いており、その心理は年齢や国や時代を超えて普遍的に読者の心に共感を呼ぶものがある。ルーシーのアドバイスは冷たいが、相談者とのやり取りから読み取れる教育的示唆は大きいものがある。それぞれの文脈における英語の表現がものの見方を楽しませてくれる。
- (6) 推薦者：ウィリアムズ厚子（大学教育基盤センター）

- (1) 柴田翔 (1985年) 『ゲーテ「ファウスト」を読む』 岩波書店、2,700円、ISBN：9784000048811
- (2) 学問領域：文学、芸術、歴史学、哲学・倫理学
- (3) キーワード：ゲーテ、ファウスト、メフィストフェレス、自己肥大化、理想主義
- (4) 難易度：2
- (5) 著者は『されど我らが日々』で芥川賞をとったドイツ文学研究者です。『ファウスト』の翻訳も出していて、本書とともに読むことをお勧めします。複雑な『ファウスト』の世界が啓かれていく知的喜びを味わって下さい。
- (6) 推薦者：中谷博幸（名誉教授）

- (1) 若桑みどり (1996年) 『イメージを読む—美術史入門—』 筑摩書房、1,188円、ISBN：9784480041692
- (2) 学問領域：芸術、歴史学
- (3) キーワード：芸術、美術史、絵画、イメージ
- (4) 難易度：1
- (5) 外国語を正確に理解するために文法は大切です。同じように、異なる文化圏の造形芸術を視るとき、ちょっとした約束事や視点を知ると、がぜん理解が深まり、視ることが楽しくなります。その入門に打って付けの本です。
- (6) 推薦者：中谷博幸（名誉教授）

- (1) 幸福輝 (2005 年) 『ピーテル・ブリューゲル ― ロマニズムとの共生』 ありま書房、5,184 円、ISBN : 9784756605856
- (2) 学問領域 : 芸術、歴史学
- (3) キーワード : ピーテル・ブリューゲル、芸術、フランドル絵画、イタリア、民衆文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) ブリューゲルはよく農民画家と言われます。しかし、それでブリューゲルの魅力を十分に捉えているのでしょうか。ブリューゲルがいいな、と思った人は、是非この本を読んで下さい。魅力はさらに広がると思います。
- (6) 推薦者 : 中谷博幸 (名誉教授)

- (1) 北川フラム (2015 年) 『ひらく美術 : 地域と人間のつながりを取り戻す』 筑摩書房、886 円、ISBN : 9784480068422
- (2) 学問領域 : 美学、社会学
- (3) キーワード : 美術、地域、つながり
- (4) 難易度 : 1
- (5) 地域社会とアートを考えるうえで、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は重要だ。その総合ディレクター・北川氏による本書には、瀬戸内国際芸術祭にもつながる、大地の芸術祭での彼の経験が記されている。
- (6) 推薦者 : 小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 藤田直哉編 (2016 年) 『地域アート : 美学 / 制度 / 日本』 堀之内出版、2700 円、ISBN : 9784906708550
- (2) 学問領域 : 美学、社会学
- (3) キーワード : 地域アート、批評
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「地域アート」という言葉を広めたのは本書である。地域アートとは地方を舞台にしたアートフェスティバルのことだが、主に本書は様々な地域アートが乱立している社会現象を批評的あるいは批判的に捉えている。
- (6) 推薦者 : 小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 宮本結佳 (2018 年) 『アートと地域づくりの社会学 : 直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造』 昭和堂、4536 円、ISBN : 9784812217337
- (2) 学問領域 : 社会学、美学
- (3) キーワード : 地域社会、持続可能なアートプロジェクト
- (4) 難易度 : 3
- (5) 活発化したアートプロジェクトによって呈された疑問を整理し、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「瀬戸内国際芸術祭」の舞台を事例にして、持続可能なアートプロジェクトの展開可能性を示している。
- (6) 推薦者 : 小坂有資 (大学教育基盤センター)